

<採用活動の早期化の動きについて>

問1. 神戸

ここ最近、特に労働者不足が言われています。学校の先生、保育士、看護師、医師、バス・トラックの運転士、建設業や土木業等、しんどい仕事がどんどん嫌われて、偏っているような気がします。厚生労働省が定めている職業分類によると、日本にある職種の数はなんと約1万8,000種類以上あるそうです。大まかに分けて12部門で、管理的職業従事者、専門的・技術的職業従事者、事務従事者、販売従事者、サービス職業従事者、保安職業従事者、農林漁業従事者、生産工程従事者、輸送・機械運転従事者、建設・採掘従事者、運搬・清掃・包装等従事者、分類不能の職業となります。就業者数は6,476万人、一番多いのが事務従事者で1,406万人、次に専門的・技術的職業1,286万人と続き、我々議員は管理的職業に入ります。

ある調査機関の2025年卒大学生就職意識調査によると「楽しく働きたい」が最多で、増加幅がもっとも大きかったのは「個人の生活と仕事を両立させたい」というものだそうです。働きやすい環境を希望したり、「育児休業を取得して子育てしたい」という割合が男女ともに高い傾向にあり、学生のワークライフバランス志向が反映されていると推測されるとのことでした。

さらに就職先として選ぶのは、大手企業志向が53.7%で、前年比4.8pt増加し、3年ぶりに5割を超えたそうです。これは物価上昇や実質賃金の低下、大手企業を中心とした賃上げ・初任給引き上げに関する報道等がなされる中、経済的な不安を軽減させたいという思いから大手志向が増加したと考えられます。しかし条件が良い企業は人気が高いため、競争率も高く、全ての学生が望み通りの企業に就職出来るわけではありません。たとえ第一希望ではなかったとしても、就職先で「楽しく働きたい」という思いがかなえられような就職先が見つければと思います。そこでお尋ねします。

大学生を含む若者への就職支援として、県はどのような取組をおこなっているのか伺います。

答弁1.(労働局就業促進課 担当課長)

本県では、就職活動前の大学3年生等を対象に、中小企業の魅力を伝え、理解を深めてもらうことを目的とした「中小企業経営者と学生の交流会」を開催し、学生が企業経営者と直接語り合える機会を提供しています。今年度は、7校で実施し、企業34社、学

生 329 人に参加していただきました。

企業については、本県で認定している「愛知県ファミリー・フレンドリー企業」、「愛知県休み方改革マイスター企業」、「あいち女性輝きカンパニー認証企業」など、ワーク・ライフ・バランスの取組を実践している企業の経営者を中心にご参加いただき、自社の強みや求める人材像、働きやすい職場環境づくりのために意識している点などについて語っていただきました。また、愛知労働局と共同で運営する若者の総合支援施設である「ヤング・ジョブ・あいち」に「あいち若者職業支援センター」を設置し、大学生を含む若者を対象に継続的なキャリア・コンサルティングや臨床心理士による個別相談、職業適性診断、面接対策などのセミナーを開催するとともに、就職活動に役立つ情報を SNS で発信しております。これらの取組を通じて、若者一人一人の希望に応じた、きめ細かな就職支援を行っているところです。

問2. 神戸

様々な支援が行われていることがわかりました。私もネットで調べてみましたが、就職準備にあたって、就職準備の始め方から、自己分析のやり方、大手企業の選考情報、戦略的就活テクニック等々、ありとあらゆる情報が出てきて、今の学生は本当に恵まれているなあと感じました。逆にありすぎてどこから手を付けてよいのか迷ってしまうかも、とも思いました。

就職活動の情報が解禁となり、本格的に就活が始まるのは大学 3 年生の 3 月からとされているので、すでに 27・28 卒の皆さんは就職活動が始まっています。現在の早期の「就職活動」に対する学生の考えや感想のコメントの中には、「早期選考が主流になりすぎて学業に支障が出る」「最初、早期化していることは嬉しいと考えていましたが、実際は思っていたより長期戦で大変でした」という声がある一方で、「早期で終わらせることができ余裕を持てて良かった」「早く終わらせて良かった。長続きして就活していたら卒業研究に響いていた」といった声もありました。そこでお伺いします。

現在の大学生の就職内定率の状況はどのようになっているかお伺いします。

答弁2. (労働局就業促進課 担当課長)

本県では、県内の大学53校及び短期大学17校のうち、調査の協力を得られた大学及び短期大学を対象に、例年10月から翌3月までの年6回、就職内定率の調査を行っています。直近の調査結果となる、2025年3月卒業予定者の10月末時点での就職内定率は78.6%となっております。

前年の10月末時点の結果は、1994年の調査開始以降最も高い78.4%でしたが、

今年はその昨年を0.2%上回っております。この結果から、就職活動開始時期が早まってきた中で、企業の採用活動も早期化している傾向が見受けられます。

問3. 神戸

インターンシップ&キャリアの位置づけが変わり、企業の採用スケジュールも多様化するなかで、「いつから動けばいいんだろう」「何から準備すればいいのかわからない」といった疑問を持っている方も多いのではないのでしょうか。そこで伺います。

採用活動の早期化の動きに対して、県としてはどのような取組を行っているのか教えてください。

答弁3. (労働局就業促進課 担当課長)

就職活動を始める学生を対象に、インターンシップや就職活動への心構え、理解を深めるとともに、企業研究の一環として、「愛知県ファミリー・フレンドリー企業」など、本県で認定している企業を紹介する「就職に向けたガイドブック」を作成し、県内の大学・短大や就職に関するイベントでの配布や、県のホームページにも掲載して、広く周知に努めております。また、採用活動の早期化の影響により、内定から実際に入社するまでの期間が長くなる傾向にあるため、学生側においては、企業側とコミュニケーションが取れない状況が続くことで、企業に対する疑問や不安が生じることがある、と言われております。

一方、企業側、特に中小企業においては、入社前の内定者フォローが難しいことや、採用数が少ないため、同期との横のつながりを作りにくい状況であることが、内定辞退や早期離職の一因となっている、と言われております。そこで、今年度は新たに、県内中小企業の就職内定者を対象にビジネスマナーの習得やグループワークを盛り込んだ「新社会人準備講座」を来週16日にウインクあいちで開催します。

この講座の申し込みに際しては、内定者本人からだけでなく、中小企業が内定者研修として申し込むことも可能としたところ、企業側から多くの申し込みをいただいております。今後もこれらの取組を通じて、採用活動の早期化の動きに対応してまいりたいと考えております。

<要望>神戸

最後に要望いたします。厚生労働省所管の独立行政法人「労働政策研究・研修機構」

の調査によると、今後需要の高まりが予想される分野は、やはり少子高齢化にともなう「医療・福祉分野」。また、IT人材と呼ばれるIT製品・サービスに関わる技術者、最新のデジタル技術を活用して企業などに新しい価値を提供するデジタル人材の育成や確保が必要といわれています。その他には、建設業界や運送・物流業界の人材不足も懸念されています。

ある福祉関係の方がウインクあいちで企業説明会を行ったそうですが、3時間でたった4名だったそうで、福祉業界の人気の無さを痛感されたと言ってみえました。そんな中でも1名、素晴らしい方と面談できたそうで、きっとその方は就職してくれるだろうと希望を持ってたと言ってみえました。福祉だけでなく、保育士や幼稚園教諭、同様に学校の教員不足も深刻な問題です。私も幼稚園教諭として、子どもたちの成長を見ることが生きがいとして職業を選択しましたが、今の若者の皆さんは目標が違うところにあるのだと、世代間のギャップを感じました。

もちろん職業の選択は個人の自由です。新しい職業が増加する一方で、若者の職業に対する意識もどんどん変化してきました。職場の環境や働き方改革、企業側・雇用側も意識を大きく転換していかなければいけない時期がきているようです。必要とされる職業、必要とされる人材、就職を希望している若者が「楽しく働ける」職場で、「個人の生活と仕事を両立させることができる」職場を選ぶことが出来るよう、県として引き続きサポートしていただくことを要望して質問を終わります。